

◇ 640 笠取山～雁坂峠(奥武蔵)

期 日 6月5日(土)～6日(日)

費 用 約6000円

参加者 4名

コースタイム 5日(土) 南浦和 7:33＝西国分寺 8:03＝高尾 8:26～8:44＝山梨市 10:02～
10:26＝新地平 11:16－作業倉庫 12:15～12:30－林道終点 13:40～
雁峠 14:40－笠取山 15:10－水干(多摩川源頭)－雁峠 16:35(雁峠山荘泊)
6日(日) 雁峠 6:25－燕山 6:55－古礼山分岐－古礼山 8:30－水晶山 9:00～
9:10

－雁坂峠 9:45～10:15－林道終点(亀田林業) 12:20－道の駅みとみ
13:20～14:30－塩山 14:35～14:54－立川－西国分寺 17:44－南浦和

南浦和駅で3人、山梨市駅前で1人が合流、4人揃って山梨市営バスで新地平へ向かう。支部外から参加のお二人は今宵の宿である雁峠山荘の元サポーター。4人ともほぼ同じ年代なのですぐ打ち解ける。作業倉庫前で昼食をとっていると下山してきた親子連れから先ほど熊が出たとの情
ちよくちよく出沒している。林道終点の山道は新緑まっただ中、快適に飛ば空間がぐっと広がり間近に笠取山も峠山荘にザックを預け空身になり3人す。直登をしばしあえいで山頂へ。奥大な緑の広がりを感じる。さてお目当ゲは蕾をつけている木が少なく“まだそれでも蕾をつけている木は精一杯



報を得る。毎年
から雁峠まで
す。雁峠に到着。
よく見える。雁
で山頂を目指
秩父山塊の雄
てのシャクナ
ら咲き”の状態。
可憐な淡い花

びらを見せてくれているので満足する。笠取山本峰(1954M)を経て水干への回遊コース途中には紫色のツツジはまだ蕾の状態で開花待ち。多摩川の源頭である水干で偶然最初の一瞥?を見ることが出来た。山荘に戻り、先客がおこしてくれた焚き火を囲んでまず乾杯とする。先客2人の内1人は奥秩父縦走中(67歳)、も1人は沢登り専門。2階の管理人室に上がり豆炭こたつを囲んで4人で夕食。話は弾むが、ややアルコール不足が影響したのか早々10時前にお開きに。翌6日4時30分、奥秩父縦走者は懇切丁寧な別れの言葉を残して早立ちする。私達は朝食と部屋の片付けを慌ただしくすませる。渡辺さんは近くの分水嶺で黙想ののち下山して“道の駅みとみ”で私達と合流することに。6時25分、3人で燕山(つばくらやま)の急坂を上り始める。途中で遙か彼方に富士山と南アルプスの山々が見える。この山々この先雁坂峠まで見え隠れしながらも私達の目をふんだんに楽しませてくれることに。燕山から始まるシャクナゲの群落を期待したが咲き具合は昨日の笠取山付近と同様で不作。今年はどうもスカ＝外れの年のようだ。昨年パスした古礼山付近は富士山と南アルプスの絶好のビューポイント。今回のコースの最高峰水晶山(2158m)まではひと汗かいたあとは雁坂峠へは緩やかで快適な下りが続く。雁坂峠には甲武信岳方面からの下山者計10名ほどが

一休みしておりちょっとした賑わい。私達も 30 分休憩。峠からは急坂を一気に下り、



沢を下って左岸がスパッと切れた山道を経て亀田林業の林道終点にたどり着く。道中はまさに“目に青葉”一色だった。味気ない舗装道路を 1 時間ばかり歩いて“道の駅みとみ”によりやく到着。折良く渡辺さんと合流しそばと生ビールで昼食兼打ち上げ。渡辺さんが 14 時 30 分の塩山行きのバスがあることを調べてくれたのでこれに乗る。西沢溪谷方面からの行楽客・登山者で超満員。塩山から普通電車で立川・西国寺で乗り換え予定より早めに帰途に。入梅前の新緑まつ盛りの爽やかないい山行でした。

T 記

燕山～古礼山間で（左奥：大菩薩嶺、右奥：富士山）